

論文 / 著書情報

Article / Book Information

題目(和文)	営利企業の組織間協働による復興の実践とその特性——東北六魂祭の事例を中心に
Title(English)	
著者(和文)	梅田 悟司
Author(English)	Satoshi Umeda
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京科学大学, 報告番号:甲第29号, 授与年月日:2024年12月31日, 学位の種別:課程博士, 審査員:西田 亮介,猪原 健弘,永岑 光恵,弓山 達也,治部 れんげ,圓丸 哲麻
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Institute of Science Tokyo, Report number:甲第29号, Conferred date:2024/12/31, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	要約
Type(English)	Outline

論文要約

THESIS ABSTRACT

系・コース： Department of, Graduate major in	社会・人間科学 社会・人間科学	系 コース	申請学位(専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(学術)
学生氏名： Student's Name	梅田悟司		審査員主査： Chief Examiner	西田亮介 特任教授	

要約

Thesis Abstract

本論文は、東日本大震災後に見られた営利企業の組織間協働による復興の形成過程とその特性に関する研究である。本論文の目的は、なぜ、東日本大震災後に、営利企業は組織間協働による復興を行ったのか、そのプロセスと影響を明らかにすることにある。この問いに答えるために、分析の視座として、復興における営利企業の役割と実践の変化について、時系列を基に問いを細分化し「東日本大震災の前後における復興主体の変化と営利企業の役割」「東日本大震災後における営利企業の組織間協働による復興の登場と形成過程」「営利企業の組織間協働による復興がもたらした影響」の分析を行った。

分析の結果、東日本大震災後に営利企業の組織間協働による復興は、CSRの実践の場としての組織化、企業単独型復興の限界、被災地への理解と理解に依拠した解決策による参加者の動機付けを背景として、実現に至ったことが明らかになった。また、東北六魂祭による効果として、長期間にわたる継続とメディア発信という循環によって象徴的復興として機能し、復興感覚に肯定的な影響を与えたことがわかった。

また、本論文で分析の枠組みとして採用した協働の窓モデルの改善の余地を提示した。営利企業の組織間協働による復興を促進する要素として、被災地における「地域の流れ」の重要性が高いことが明らかになったことから、組織間協働による復興を分析する際には、従来の「問題の流れ」「解決策の流れ」「活動の流れ」「組織のやる気の流れ」の視点に加えて、「地域の流れ」を追加することを提案する。この新たな枠組み「協働の窓モデル<復興分析>」を用いて東北六魂祭を分析したところ、地域の前史や既存の取り組み、地域の意向といった分散していた要素が明確になることで、より精緻な分析が可能になるだけでなく、効果的かつ持続可能な組織間協働の実現に向けた指針を得ることができると考えられる。

キーワード：営利企業による復興、組織間協働、象徴的復興、CSR・CSV